

## くれあ通信 2月号

新年があけて早いものでもう1月が経とうとしております。先日、母校のOB会である「情報産業経営者稲門会」で慶応との合同新年会が行われました。銀座にある日本最古の社交場・交詢社での開催でした。一昨年より本稲門会に参加させていただきましたが、昨年は我が早稲田の社交場である永楽倶楽部で開催されたため、慶応の交詢社へは初めて訪れました。素晴らしい立地と格式あるその建物と様式に圧巻。とてもとても若輩者の私などが踏み入れるところではない、そんな印象さえ抱いてしまいました。新年会は、第一部と第二部で構成され、第一部は著名な方をお呼びびしてのご講演、第二部は賀詞交換会となっております。今年度は慶応の主催でしたので、第一部は慶応義塾大学講師の竹田恒泰先生をお招きし、『日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか』という演題でご講演いただきました。昨年の震災を乗り越えた日本の素晴らしさ、美しさを力強く語られたその内容に、とても勇気と元気をいただきました。そしてそして、竹田先生のパワフルさがこれまたすごかったです。講演の内容もさることながら、まるで歌っているかのような流暢な言葉の操りに、心地よさを覚えめました。先生は年齢が私より2〜3上なだけ。感嘆の限りでした。



## 朝霞紹介



1月29日にお隣の和光市で「第8回ニッポン全国鍋合戦」が開催されました。和光市商工会主催の本イベント、題目の通り、日本全国至るところから郷土自慢の鍋を持ち寄って、お客様の投票で1位を決めるというものです。朝霞市商工会でも鍋を出すということで、お手伝いかたがたこのイベントに参加してきました。当日の賑わいはそれはそれは大変なもので、広い敷地に所狭しと50組くらいの屋台が軒を連ね、多くの方の胃袋を満足させていました。鍋はおおむね1杯300〜400円程度となっております、

3〜4杯食べるとう動けません・・・。そんな中、食べたことない、食べにくいのも難しいなあという鍋がたくさんあり、本当においしいのなんの。我々商工会も「The締〜この一杯〜」という鍋を売り切りしました。競合ひしめくなか今年の優勝は「山形牛すじ煮」！格別の一杯でした！



## 映画紹介

### 『ソナチネ』

今やすっかり巨匠と言われる北野武監督。今回はその北野監督の根幹を見事に表した作品『ソナチネ』をとりあげます。『ソナチネ』は北野監督の4作品目の作品で、5作品目を出した後にバイク事故に遭遇します。『ソナチネ』とその直前の作品である『あの夏、いちばん静かな海。』は、彼の根源の双璧をなす作品だと思えます。どちらの作品にも共通しているのが「静謐」。これらの作品は明らかにそれまでの日本映画から見ると異質で、エン

ターテイメントとは真逆を指向しています。ですので「この映画は面白い」などという評価は全く意味がありません。しかし、彼が目指した指向は既知のように後に華を開きます。これらの作品で示した北野映画の根っこは今も守られていると思います。

ソナチネ  
平成5年  
1993

Director: 北野武  
Writer: 北野武  
Cast: 北野武  
国舞亜矢



## 書籍紹介

### 『すべてがFになる』 森 博嗣

国立大学の助教授として勤務しながら、1996年に刊行した作品です。本作は第1回メフィスト賞を受賞していますが、同賞は森博嗣を衝撃的にデビューさせるために設立されたとも言われています。本作は、登場人物の頭文字を冠したS&Mシリーズと呼ばれる作品群の第一作目です。大学の助教授らしく、大学や研究所等が舞台となることが多く、作風も相まって理系ミステリィなどと呼ばれています。数学や情報科学の用語が多用されています

が、その領域に少し知見があれば抵抗なく読み進められると思われます。著者は現在執筆活動を行っていませんが、新刊が発売されるスピードは例にみないほど早いものでした。おかげで本屋さんをチェックする頻度が上がったことを覚えています。エッセイによると、現在は趣味の鉄道模型作りなどを楽しんでいるようです。

本作単体でも十分に楽しめましたが、別シリーズとリンクしていたり、伏線となる要素がちりばめられておりますので、本作が気に入った方は是非全作品制覇を目指してみてください。



# Crea

コンピューターソフトウェアの企画、開発なら株式会社クレアへ